

平成21年度 厚生労働省障害者自立支援調査研究指定事業  
障害者アートを活用した障害者の自立・社会参加に関する研究プロジェクト  
第3回製品開発委員会 会議要旨

- 1 開催日時 平成21年11月19日(木) 午前10時～12時
- 2 開催場所 広島市立大学 芸術学部 2階 会議室
- 3 出席委員 5名  
大井健次委員、吉田幸弘委員、木村成代委員、田中真弓委員、中村隆行委員
- 4 事務局 4名  
NPO法人ひゅーるぼん事務局：川口隆司、本田真輝子  
広島市立大学担当者：中村圭、今井みはる
- 5 議題 1) 製品化候補アイデアの選考  
2) 委員会参考出展製品アイデアの提案について  
3) 第3回イベント会場プランについて  
4) その他
- 6 会議資料 資料1) 製品化候補参考資料  
資料2) プロトタイプ作成にあたっての検討事項  
資料3) 会場プラン案  
その他) 第2回製品開発委員会議事録(仮) 11月24日訂正〆切

7 会議要旨

【議題1「製品化候補アイデアの選考」】

(吉田幸弘委員長)

では、第3回製品開発委員会を始めさせていただきます。今日の1番目の議題は製品化候補アイデアの選考ということでみなさんに現在考えている選考の候補リストとそれぞれのイメージのコピーが渡っていると思います。これについてご意見をいただき本日、展示するものについて最終的なモックアップを決めたと思っております。この中には、アイデア募集のものもありますし、委員会で出たアイデアもあります。それについてもあわせて発表していただければと思います。

それから12月6日からの会場のプランについてこの2点を議論していきたいと思います。

ではアイデアの方から説明させていただきます。まずは1番から12番までありまして、1番の『ルーアー』というのは前回の委員会の時にお話しさせていただいたものです。第1回と第2回のワークショップ『ぼんぼん』さんと『かしの木』さんと二カ所で2日間に渡っておこないました。これはルーアーの形の木を用意しまして、初回はサカナの絵を描くということで図鑑等を用意したのですが、初めから『サカナ』というイメージがあると発想が生まれにくく、時間も掛かり描きづらかった方もいらっしゃいました。そこで第2回目は、材料だけを渡して自由に描いていただきました。1回目と比べると自由に描けていただけている

と思います。この後、クリアな塗装をかけ、ウレタン塗装をし、仕上げる予定です。現在40個近くあります。2番目の『ストッキング』というのは、原画となったのは、ぼんぼんさんの女性の作品です。これは委員会提案となります。それから続いて『マフラー』。シルエット型と短形型とあります。シルエット型というのは長方形ではなく原画の絵柄のシルエットに合わせた形でマフラーをつくっていくというものになります。短形型というのは書を使ったものです。薄めの布にプリントしていくというものです。これはアイデア募集の中にもありました。4番目の『金太郎あめ消しゴム』というのは金太郎あめというアイデアと消しゴムというアイデアを委員会でまとめたものです。金太郎あめのようなデザインを輪っかの形にして切って使うというものです。5番目『カップ&ソーサー』ですが資料では解りづらいかと思うのですが以前に川口さんとお話した時に、障がい者の人たちが絵を描く時に、被写体だけを見て背景がぼけるといいますか、背景がいろんな色、抽象的なパターンで分かれるのだとそういう共通の描き方のようなものがあり、それをカップ&ソーサーに展開したものです。カップの方が鏡面になっており、そこへ印刷します。カップに印刷するものは被写体になります。ソーサーに背景を印刷し、合わせると一体となりひとつの絵になるような仕掛けになっております。「お父さんと僕」という作品なのですが、このような被写体があり背景が抽象的なパターンになっている絵はいくつかありました。今後、実際に作る場合、他にもないかがしてみるつもりです。4種類くらいあり違う絵と組み合わせても面白いのではないかと思います。6番目は『カフェセット』です。従来からあるものなのですが、アイデア応募の中でも多数あり、田中委員の方でも全国展開の可能性も高いのではないかと、ということで紙のランチョンマット・箸袋・ナプキンこの3点セットで全国的に障がい者アートを広めていければと思います。7番の『動物パズルクッキー』ですが、ここではこのイラストを一体化、単純化したものをクッキーの型として販売する、ということです。クッキーとしても食べられるしパズルをおこなうこともできるという商品になります。8番目の『しりとりマスキングテープ』ですがアイデア応募でありましたので、そのまま活かした形になります。以上を12月6日までに制作したいと思いますのでみなさんの了承を得たいと思います。9、10、11に関しては時間的に余裕があれば制作したいと思います。もうひとつ、事務局の方から現在作られているものがありますのでそれを説明していただきたいと思います。

(事務局)

はい、9番に『日用品のアートラッピング』というものがあります。日用品をアートラッピングしたものを制作しようと思います。今回、視察に行った『アトリエやっほう!!』さんでは障がい者自身が作ったものがそのまま製品になり販売されておりました。私も色々調べてみたのですがそのような製品は全国的に比較的少ないようです。そちらで制作されていた電車の製品は彼らと一緒に陶芸をやられている先生の『これを売ってはどうか』と言う提案から始まったそうです。以前の委員会でこの実物をお見せしましたが、電車と線路以外に、彼は『家』も作ります。色んな家が造られていて繋げていくとジオラマみたいになるんです。加藤宇章先生が気に入られて幾つか買われていましたが成人男性も惹かれる商品でした。彼らの作ったものに対して専門家が手を加えて価値を高めることにより製品として形になっていく。それは彼らしか作ることができないので希少価値もつき、値段をつけるような時も大量生産は難しいので高い値段をつけることができます。外注にだして販売するというのを考えがちですが、こうした制作・販売の方法は注目すべきではないかと思います。彼ら自身のアートをそのまま活かすこともできるという訳です。『ぼんぼん』の方でも色々、試行錯誤しながら取り組んでいるところです。幾つか考えているのですが、例えば、動物が好きな人は動物の絵を描いてキーホルダーを作ったりしています。これらについては吉田先生に相談しながら進めていき、形にしていきたいと考えております。それから、木村先生がお話になられていた『テント』こちらを本田さんの方でお話いただきます。

(事務局)

はい、現在イラスト等でできていない状態ではあるのですが、平和大通りにオープンカフェのテントを設置していただけたらな。と考えております。テントの内側に障がい者アートがあしらってあると素敵ではないかと思いました。フラワーフェスティバルで簡易な椅子とテーブルは置いてあるのですが、座っても日が差し日陰にならない。ゆっくり座ることも難しかったので、テントが設置してあると皆さんくつろげるかなと思いました。緑地帯です、歩いて回り写真を撮ったのですが全部に設置できるスペースはありませんでし

た。100くらいは設置できると思うのですが、企業さんにご協力いただいて買い取り、名前を入れるようなことはできないかなと考えました。オープンカフェを始めたのが全国で広島が発祥の地らしいです。オープンカフェだと他のショップ等と問題になると思いますが、テント・椅子・テーブルのみだとお店で買い物をして、テントの下でお食事をするのも可能だと思います。

(大井委員)

それは、近くのお店でテイクアウトして食べることもできるのですね。

(事務局)

はい、そうすると楽しいかと。活性化されるかと思うのですが。

(大井委員)

平和大通りの全体の中で、形状だとか置き方だとか運用だとか公的な場にあることですので、相当色々整理しないと難しいと思います。緑地帯になると市が管理しているので相当難しいとは思いますが。

(事務局)

はい、そうですね。これは提案として発表するのも良いのではないかと思うのですがいかがでしょうか。

(大井委員)

全日空の斜め前で、実験的にオープンカフェをやっていましたよね。あそこもちょっと入りたくない雰囲気でした。

(事務局)

お店だから、こうしてはいけないああしてはいけない。というものが出てくると思うのですが場を提供するだけだと座って休憩してもいいし、お弁当を持ってきてそこで食べられてもいいと思うのですが。もちろん、ゴミが増える等の問題が出てくると思うのですが。そこは管理をしてというように。

(大井委員)

近辺に、テイクアウトするお店があるといいですね。

(事務局)

はい、定着すると屋台のようなお店も来てくれるといいなと思います。紅茶屋さんやコーヒー屋さん等。障がい者アートとの繋がりにはテントの中にアートの絵柄があり、気づいたらみんなの生活の中に入っていた、というように出来ないかなと思います。

(大井委員)

木村さんが言われていたようなもっとパブリックな提案と言うことですね。

(木村委員)

私が言っていたのは、アウトドアレジャーが流行っていると聞いたので、ファミリー向けのテントに障がい者アートをあしらえないかと言うものです。企業とタイアップして作れたら良いな、と。休憩の場として行うのはとてもいいアイデアだと思うのですが管理を誰がおこなうか等の問題が発生してきますよね。私もアーバンビルの前だといいたいだろうということで幾つか設置したのですが、強風がひどくて断念しました。平和大通りに関しては管轄が非常に厳しく公園と道路とあり、その許可申請が大変でかなりハードルが高いし以前あったカフェも結局、失敗だったようです。さらに、ひとつは飲食だったので喫茶店協会か何かの反対があったようです。平和大通りに何かやるというのはかなりハードルの高いことだと思います。

( 田中委員 )

オリエンタルホテルはフラワーフェスティバルで屋台のようなものを初めて出したことがあります。ホテルのすぐ前の道路だったのですが、許可申請の書類も結構あり、当日市の職員方も見に来られたり、飲食販売の制限もありました。結構、大変だったことを覚えています。フラワーフェスティバルの時は人通りもありますが、普段は人通りも少ないです。

( 木村委員 )

テントも良いですが、ベンチも欲しいですね。今、置いてあるベンチの数も少ないと思います。

( 大井委員 )

吉田先生関わっていらっしゃる市の総合計画づくりでは、『モデル都市になるんだ』と宣言しています。それも平和だけではなく、再生だとか、弱者だとか、障がい者の方にも優しいバリアフリーだとか、それが広島流のアイデアだったりやり口で来る方にアピールできるのではないかと言う話が出ています。原爆資料館のリーバーさんもそういうことをおっしゃっていました。何かお金かけてやるのではなく、素材だったり、エコだったり、優しさだったり…と、いっぱい出てくると良いですね。そのためには、施設だとか、場所だとかがしっかり配慮されている都市づくりということも必要ではないかと思えます。このプロジェクトでも商品だけではなく、テントなどのもっといろいろな公的な場で景観をより良くするための手法として使われているようなことはあると思います。

( 事務局 )

テントについて色々な意見があったと思うのですが、映像として流すのはいかがですか。

( 大井委員 )

それにしても、今 平和大通りは構想ですね。

( 事務局 )

平和大通りというのを出さなければ、アイデアとしていかがでしょうか。

( 吉田幸弘委員長 )

そうですね。平和大通りというのを出さなければ大丈夫ではないでしょうか。

( 事務局 )

これについては、吉田先生と相談しながら決めていきたいと思えます。

( 吉田幸弘委員長 )

今の事務局からの提案も含めて、この考案の中でご意見等はございますか。

( 木村委員 )

サンプル品を作るというのは、どこからどこまでなのですか。

( 吉田幸弘委員長 )

今のところ、確定なのは1から8です。

( 大井委員 )

『マフラー』はどのように作られるんですか。

(吉田幸弘委員長)

これは染色の学生にこれから調整をするのですが、ただ単にプリントではなく『さをり』のようなものが出来ないかと思います。第2回目のイベントに間に合わないかと思うので、とりあえず、シルク印刷しようと思っております。スカーフのようなものだと透明感があるので、そうした素材にシルク印刷しようと考えております。

(大井委員)

この私がつけているマフラーはフリース製の物ですが、こういうのに出来ませんか。

(吉田幸弘委員長)

ええ、それも出来ます。その方がおこないやすいと思います。シルエット型で切った時にもほつれにくいと思います。染めると言うかプリントを出す方法が解りませんが、試作品の作り方の問題なのですが、そういうものは絵だとかCGなどで対応しようと思います。

(大井委員)

このストッキングはどういうように作るんですか。

(吉田幸弘委員長)

助教をしている塚本くんが、今 非常勤で行っているファッション専門学校にストッキングにプリントできる機械があるそうです。ですので、そこでプリントしてもらいます。

(大井委員)

展示の時に若い足のきれいな美しい女性にスタッフとして入ってもらうのはいかがでしょう。

(田中委員)

マネキンはいかがですか。最近、広島の10代、20代の若い子でストリート系のファッションが多くなってきているように思いますのでこれ、いいのではないかと思います。広島って都市の規模に対して洋服店が多いようです。

(大井委員)

カップ&ソーサーも面白いですね。

(吉田幸弘委員長)

それにつきましては、実際にカップが鏡面というようなものはあります。ただそれはどちらかが鏡面でどちらかに映し出すというもので、両方の絵が一緒になってひとつの絵になるようなものはありません。

(事務局)

この金太郎あめ消しゴムは何パターンか作られるのですか。

(吉田幸弘委員長)

余裕があれば考えたいと思います。

(木村委員)

これは金太郎あめ消しゴムはどのようにつくるのですか。

(吉田幸弘委員長)

モックアップ(試作品)は、表面部分を塗装してそれらしく見せようと思います。実際には金太郎あめのような同じ作り方で、プラ粘土みたいなものを転がしていくときれいに仕上がると思います。

(大井委員)

色々、作られていますね。このカフェセットは他のと比べるとオーソドックスだと思います。

(吉田幸弘委員長)

そうですね。アイデア募集が多かったということと、普段中央広場の展示だけでなく、障がい者アートをより多くの方に知っていただくために期間限定でシャレオの中にある店舗で使っていただこうと思っているんです。それを今度、24日にシャレオさんへ打ち合わせに行きますので、その時にサンプルを持っていこうと思っています。

(田中委員)

これは、結構 積極的なピーアールになるのでいいですね。オリエンタルホテルでもランチで紙のランチョンマットを使用しているのですが『今月のおすすめ』というように使用しているのですが、評判も良く待ち時間にも見ていただけますし、好評いただいております。

(事務局)

マクドナルドでもやられていましたよね。結構、好評だったと。

(大井委員)

ホテルで使っていただいたりとかは出来ないのでしょうか。

(田中委員)

いいですよ。と言いますか、ギャラリーでその展示の期間中、置いておくことはできます。

(大井委員)

期間中も良いのですが、これくらいのクオリティでしたら企画展などやっていただけるのでしょうか。

(田中委員)

大丈夫です。リレーション次第だと思いますがランチョンマット等は主流ですし、可能だと思います。

(事務局)

ホテルのは紙ですか。

(田中委員)

はい、紙です。使い捨てになります。1回に30,000枚くらい使用しています。

(大井委員)

それから、メーカーとタイアップというか、企業さんに協力いただけないかと思うのですが。

(吉田幸弘委員長)

はい、現在文房具関係でコクヨさん等と連絡をとってみようかと思っています。

(木村委員)

●●フーズさんはどうですか。社長さんがどこかの福祉団体を支援されていて協賛で入っていただいたりしています。

(大井委員)

●●フーズさん、デザイン系もそして福祉の方も関係者がいらっしゃるのですね。

(事務局)

一応、社会貢献の企業さんにはご連絡しようとは思いますが、その他に知っていらっしゃるところがありましたら是非、お知らせください。ご案内をしようと思しますので。

(吉田幸弘委員長)

作品については、これで大丈夫でしょうか。

(事務局)

すみません。作品展示数なのですが今のところ8点決定でよろしいでしょうか。

(吉田幸弘委員長)

はい、展示計画の方とも連絡を取りながら進めていきましょう。

(大井委員)

原画との対比みたいなものも大切にしなければならないと思います。どういう方々とコラボレーションして出来た試作品ですと解るようにしないといけないですね。あまり説明的になるとおかしいと思いますが。

(事務局)

本物の絵があった方がよろしいでしょうか。

(大井委員)

本物の絵かプリントでも、元になったベースとなったものがあると良いと思います。

(吉田幸弘委員長)

いずれにしても試作品化するにあたり了承がいきますので、その時に原画にするかプリントにするかいたしましょう。

(事務局)

展示の事とも絡んでくるのですが、出来るだけ関連性が解るようにしていきたいと思います。

(吉田幸弘委員長)

それと、アイデア提供者はどのように表示したらよいでしょうか。純粹に公募アイデアが試作品となる物は『しりとりマスクングテープ』のみなんですが。他は複合案だったり、委員会提案だったりなのですが。

(事務局)

資料2(3)『製品化アイデア提供者への対応について』の1番上の部分で「全公募アイデアを何らかの形で第3回イベントまでに公表してはどうか」とあるのですが、Webだとか紙の媒体で、名前を公表してはどうかと思います。それを今回、会場での展示に間に合うかどうか厳しいので。カップ&ソーサーにつきましても「マグカップ」「タンブラー」「コップ」等、すごく多くの方にアイデアをいただきましたのでひとりひとり載せるのは現実的ではありませんので、Webの方でアイデア応募者の一覧を載せる。『しりとりマスクングテープ』についてはお一人のアイデアですので何かの形で表彰するだとか、何か考えようと思います。次年度以降の話ですが、なるべく全てアイデアを公表してはどうかと考えております。

( 木村委員 )

今回のイベントもお知らせした方がいいのではないですか。中央広場の展示スペースで応募のハガキ等を展示してはいかがですか。

( 事務局 )

第2回のイベントで応募ハガキを展示するスペースはありません。しかし、何らかのかたちで公表することは必要だと思います。

( 大学事務局 中村 )

個別に置くと絵はがきみたいになってしまうので、応募ハガキをプレゼントボックスに貼ってはいかがでしょうか。色んなアイデアが集まりました。とボックスをラッピングするように。

( 吉田幸弘委員長 )

これだけの数ですので、あまり皆さん見ないでしょうし貼ることはしない方が良いと思います。グラフィック表現の一部にしておく、くらいにした方が良いでしょう。

( 事務局 )

第3回のイベントでは、次回に応募しませんか。というような締めくくりで続けたいと考えております。ここは、事務局でまとめておきます。

( 木村委員 )

『みなさんの意見を参考にしました』と記載するだけでもいいのではないですか。まだ製品もできてないですし商品となって爆発的ヒットが出たと言うのでしたら税金等、色んな問題が出てくると思いますが。

( 事務局 )

そうですね。権利の話はもうひとつ別の『附随権利等検討委員会』でも話し合っておりますので、そちらの見解とも整合性を持たせたいと思います。

## 【議題2「プロトタイプ作成にあたっての検討事項について」】

( 吉田幸弘委員長 )

それでは、次の資料2プロトタイプ作成にあたっての検討事項に入りたいと思います。事務局、川口さんからどうぞ。

( 事務局 )

はい、資料2をご覧ください。

まず用語整理をしたいと思います。 附随権利等検討委員会より、委員によって使う言葉が違うので用語を統一してはどうかと提案が出ました。

- アーティストというのは原作品を制作した人。
- 原作品管理者は原作品を管理する人。障がい者アートの場合は施設等がごぞいます。
- 製品化アイデア提供者は製品化するにあたりアイデアを提供してくれた人。今回でいうとハガキ等出していただいた方々や、吉田先生チームの事を指します。
- 製品デザイナーは製品化するにあたりアイデアを元にデザインする人。こちらも吉田先生チームにあたります。
- 支援施設はアーティストの制作活動を支援してくれる施設。
- 事業者は事業全体のプロデュースを担う人。
- 販売者は事業者がおこなうことが多いが販売委託をおこなう場合の人。

と言う提案です。

それから、制作にあたっての承諾についてですが、現在、3項目に書いてあります、「プロトタイプ制作については改めてアーティスト、場合によっては支援施設並びにアイデア提供者に対して利用許諾を得る必要性が発生する。」という段階です。本日制作するプロトタイプがほぼ決定しましたので事務局の方でアーティスト、場合によっては支援施設、アイデア提供者へ利用許諾の手続きを行おうと思います。附随権利等検討委員会では書面にて行う事が適切だとしていただいておりますが、今回時間もあまりありませんので電話で確認をとりたいと思います。そして、製品化する段階で再度、許諾の申請手続きを書面でおこないたいと思います。その中で先ほど出ました、売れた時にどのようになるのか。そのような事を今後検討していかなくてはならないと思います。基本的なスタンスとしては、アーティストに利益を配分することが自立の足掛かりになるのではないかと考えています。

(吉田幸弘委員長)

はい、プロトタイプの制作の中でひとつのアイテムに対して数点あがっておりますが、これは全てアーティストに対して了承を得る事は可能ですか。12月6日からの展示にそれは全て使用しない可能性もあるのですが。

(事務局)

はい、決まった時点で言ういただけると事務局の方で動きます。今回については企業さんがこれをお金を使って作りたいと欲していただけと違いますので、製品化の段階で契約させていただくことについては後ほど書面にて交わす事にいたします。今回、試作品の制作の上で使用されないというかたちになった場合それはそれで、随時了解を得ます。時間もありませんので試作品承諾につきましてはお電話で口頭にて連絡をさせていただきます。

ひとつ、別件で質問をしたいのですが 例えば、マスキングテープなどでも1つアイデアを見せるような事はしない方がよろしいですか。

(吉田幸弘委員長)

それは、誰に対してですか。

(事務局)

イベントの告知で、新聞広告だとかなのですが。

(吉田幸弘委員長)

別に、公表してもよろしいと思うのですが、確実なものについては可能です。

### 【議題3「第2回イベント会場プランについて」】

(吉田幸弘委員長)

それでは、イベント会場について事務局からご説明お願いいたします。

(大学事務局 今井)

はい、第2回イベントは第1回目と同じシャレオ中央広場でおこないます。プロトタイプを展示・プレゼンテーションするというかたちで展示していくのですが、皆さま現在のシャレオ中央広場の会場をご覧になりましたでしょうか。現在シャレオではクリスマスに向けて多くの電球、装飾等が飾っております。それに合わせてクリスマスイメージでやった方が良くはないかという話になりプレゼントボックスを使用した展示をおこなっていききたいと思います。資料の下部分にイメージ図案があるのですが、どのくらの高さにするかは今後検討していききたいと思います。面積的には5mくらいの高さで、箱の大きさはただ今、ダンボールを素材として考えているのですが、大・中・小というボックスで構成していきます。大きいものは

1.5mくらいの立方体から小さいもので50cmくらいの立方体を予定しております。その箱の中にプロトタイプを展示します。プロトタイプに合わせたグッズも一緒に展示、クッキーに関しては会場で焼く事も可能だということで実演してはどうかと考えております。

下にレッドカーペットが敷いてあるのですが展覧会タイトルが『Crossing』ということで交差させ、プレゼントボックス自体を大きなかたまりにしてリボンのように見立てようかと思えます。先ほど大井先生からも指摘いただきましたが、どの作品が元となったのかと解るように、箱の一部に障がい者アートの絵をほどこします。後、企業さんへ宣伝していくことと、一般の方にも解るようにボックスの形態を使用してプロトタイプのコンセプトボードを作成します。会場は、電飾がしてありますので通常使用されているライトは点けずに少し控えめなライトの方がプロトタイプが目立つのではないかという意見が出ています。

検討事項として『箱にリボンをかけようか』『リボンを製品のひとつにしようか』等の意見が出ております。『ぼんぼん』さんの活動映像を流せたらいいのでは、と考えましてこれはモニターかプロジェクターを検討しております。他に、カッティングシートを今回も使用するか、ボックス内のプロトタイプは触れるようにするか、装飾なのですが今回クリスマスシーズンのイベントなのでそのような装飾物をつけるか、クッキーを配布するか、後は中央広場へどうしたら誘導できるか等の検討事項があります。

(吉田幸弘委員長)

はい、何かご意見等がございますか。今度、24日にこの案件をまとめて打ち合わせに行かれます。ですので、沢山のご意見を委員の皆様よろしく申し上げます。

(事務局)

はい、次回のプロジェクト推進委員会では『このように決まりました』という報告になりますので現時点でご意見等をよろしく申し上げます。当日、開催期間中にアンケートをお配りしようかなと思えます。前回の委員会で田中委員の方から、市場調査も必要ではないか。というご意見がありましたので、市場調査にはならないかもしれないのですが『あなたはどの製品が好きですか』『ここをこのようにして欲しい』等のアンケートをとりたいと思えます。それからこれはシャレオさんからのご要望なのですが、どなたかコラボしてイベントを行って欲しいとのことで、開催日の午後広島市立大学の吹奏楽部さんにご協力いただくことになりました。それから第1回イベントでもご協力いただいたヴィオラ奏者の沖田さんですが、9日の夕方4時30分からの演奏予定になっております。

(木村委員)

それから、ダンボールを発注して制作という事だったのですが前回使用した木材は使用しなくてもよろしいですか。木材の管理はおこなっておりますので必要な場合は声を掛けてください。床には、何を敷かれるのでしょうか。

(大学事務局 今井)

レッドカーペットを敷こうと考えております。

(木村委員)

パンチカーペットではなくてですか。

(大学事務局 今井)

パンチカーペットと言うのですか。

(事務局)

安いのがありますよね。

( 大学事務局 今井 )

ネットで調べて安いところでの購入予定なのですが、どこか無償で貸していただける等ありましたら教えてください。

( 木村委員 )

これだけの寸法だと、結構高いのではないのでしょうか。箱はペイントするのですか。

( 大学事務局 今井 )

いえ、白いダンボールを注文し、そこに包装紙というかラッピングか何か、絵を貼っていかうか、どのようにしようか考えている段階です。

( 大学事務局 中村 )

歩いていって、中に何か入っているのかな、とサプライズ感を出したいと思います。回りをごちゃごちゃにすると中のものが目立ちませんし、かといって白い箱だけだと寂しいですしバランスを考えることが必要だと思います。中に展示するものとの兼ね合いで決めようかと思うのですが、挨拶文等もこの箱を使って作ろうかと考えております。

( 吉田幸弘委員長 )

結構、会場がクリスマスの装飾で複雑になっていますよね。

( 大学事務局 中村 )

また、お店等の宣伝でマネキンが回りに飾ってあつたりしますのでなかなか中央が目立ちにくいという事もあります。

( 木村委員 )

回りにテーブルや椅子があつたと思うのですが、今回は置くのですか。

( 事務局 )

いえ、あれは前回シャレオさんをお願いをして出していただいたものです。この階段の上にある出店はあると思います。

( 木村委員 )

スクリーンは撤去されたのですか。

( 事務局 )

いえ、来年撤去の予定だそうです。先日ITのイベントがあり、その時に設置したモニターはそのまま設置されるそうです。縦長のもので、シャレオでのイベントを遠隔操作で流してらっしゃるそうです。

( 大井委員 )

ITもいいのですが、設置方法もちょっときれいではないですね。

( 大学事務局 中村 )

突っ張り棒で支えているような、テレビを設置しているような感覚ですね。

( 吉田幸弘委員長 )

プロトタイプに当てるライトは各2個とありますが、これはシャレオさんにある既存のライトで可能ではないですか。

( 吉田幸弘委員長 )

やはり個別の照明になるとコードが乱雑になったり、箱の素材が紙なのでスポットライトって熱量がありますし、火事とかになる可能性もあると思います。昨日見た時にムービングライトが複数あり、そのライトの方向を変えると使えると思うのですが。

( 事務局 )

先ほどの木村先生がおっしゃったのはテーブルと椅子がない方が良いということでしょうか。

( 木村委員 )

今回は少し、ごちゃごちゃするのではないかと思います。

( 事務局 )

アンケートをおこなうにしても外周の部分でやるようにいたしましょうか。

( 吉田幸弘委員長 )

プレゼントボックスなのですが床に固定か何かおこなうのですか。

( 大学事務局 中村 )

軽くて動きますので、何とか工夫しようと思います。或はこの中に重しを入れようと思います。

( 大井委員 )

そうですね。お子さん等ぶつかっては相当大変な状況が想定されますので。

( 大学事務局 中村 )

ただ、必ず触ってしまいますよね。

( 事務局 )

前回のイベントでも大きな展示物をしましたが、中央広場は通路として使う方も多いので、前回つまずいて怪我をされた方もいらっしゃいます。ダンボールなのでそういうことはないと思いますが蹴飛ばす方はいらっしゃるかもしれませんねそういう事が心配です。

( 大学事務局 中村 )

そうですね。例えば、一番外側は空箱を展示し、中に入った所に展示物（プロトタイプ）を設置するのはいかがですか。にしてもダンボールですので蹴られるとアウトですよ。

( 吉田幸弘委員長 )

あと、子どもが寄りかかってしまう可能性は。

( 大学事務局 中村 )

あり得ます。

( 木村委員 )

ダンボールの中に台のようなものが入っていてそこに展示するというのはどうですか。

( 大学事務局 中村 )

はい、台自体に重さをつけて設置するか、または固定するか。それがどうしても良くないという事になると中にプロトタイプが入っているものに関してはベニヤや木材で対応したいと思いますが、ただ木材で作った場合でも子どもが寄りかかっても倒れる可能性があります。

( 木村委員 )

監視がつきますよね。

( 事務局 )

はい、監視がつきます。スタッフが随時1名または2名つく予定です。前回もそうだったのですが説明を聞きたいという方がもいらっしゃいますし、落書き等のいたづらを防止する意味でも。

( 木村委員 )

ただ、今回は展示方法が違い展示スタッフも見渡しやすいのではないのでしょうか。

( 事務局 )

それから、中にあるものを触ってみたいと思われると思うのですが。

( 吉田幸弘委員長 )

そうですね、触って大丈夫なものや触れないもの、触らせたくないものもあります。ですので実際、試作品を作ってみて基本的に触らない・触れない設定にしておいた方がいいと思います。

( 大学事務局 中村 )

ストッキングなんですけど、マネキンで見せる方法と実際に履いているイメージ写真等も必要なのではないかなと思うのですが、ここは吉田先生と話し合いながら進めていきたいと思っています。原画があり、このような試作品になりこのような使い方をされるような展示方法へ持っていきたいと思っています。先ほど言われたように、原画との関連性を展示に表現し、楽しい感じにしていきたいと思っています。

( 吉田幸弘委員長 )

はい、そこはお互い密に連絡を取り合いながら進めていきたいと思っています。

( 大学事務局 中村 )

それと、展示会場の手伝いを学生にせつかくなのでしていただきたいと思っています。

( 事務局 )

あと、『人を中央広場に誘導する戦略』とありますが、第1回目にベント後に加藤宇章先生と、何か大きいものがあって遠くから何をやっているか分かるようなことはできないかという話をしていました。シャレオさんから『水があるところでは大丈夫なですよ』と話を聞いたのですが、そういう場所を使って誘導することはできませんよね。

( 大学事務局 中村 )

そうですね。1つは本田さんがハート形のリーフレットを作られていますよね。あれを柱に貼って展示したりプレゼントボックスの中に、ダンボールに貼った障がい者アートの動物が入っていたりして置いてあったら良いのではないかなと思います。

( 吉田幸弘委員長 )

それは中央広場以外で、ということでしょうか。クロスの階段おりた入り口などですか。

( 大学事務局 中村 )

柱にカッティングシートを貼ったりしたのですが、あまり効果的ではなかったと思うのです。

( 事務局 )

今回は中の柱は装飾がしてあるので、使えないのですよね。

( 事務局 )

周りの柱に何かしらおこなっても目立たないと思いますので障がい者アートの動物等の絵があるのはいいですね。

( 大学事務局 中村 )

ボックスにと考えるのであれば複製したものを内側にあしらったり、包装紙のようにあしらったりする方法でしょうか。

( 田中委員 )

すみません、立てかけてあるフタも軽い素材なのですか、固定とかされるのですか。

( 大学事務局 中村 )

立てかけです。

( 吉田幸弘委員長 )

立てかけだけだと倒れたり、蹴飛ばされたりする可能性があるのですが、テープで貼るなり何かしらボックスと繋がっているような構造にするべきではないでしょうか。

( 大学事務局 中村 )

私も、テープで貼ることも考えたのですが逆に蹴飛ばしたらポンつと動く方が良いのかなと思いました。固定し動かないようにしてしまうとぶつかる衝撃も大きいのではないかと思いました。

( 吉田幸弘委員長 )

何も入っていないボックス等は良いと思いますが、コンセプトなど描いてあるフタが常時動くような展示はいかがなものでしょうか。下についてなくても箱の方についているような、そこは開け閉めができるようなものにしてはどうでしょうか。その辺については話し合っただけで進めてください。

( 事務局 )

クッキーを会場で焼くという案ですが、場所がいきますよね。

( 大学事務局 今井 )

はい、シャレオの永野さんと『クッキーの香り』で中央に誘導するのは良いかもしれない。ただ、どのくらい準備したら良いか等の予測を出していないのですが。

( 吉田幸弘委員長 )

実際に焼いていただけるような施設等はあるのですか。事前に焼いてもらって、会場で焼くというのは現実的ではないと思いますので。

( 事務局 )

作ってくれるような施設はあると思います。

(事務局)

前回、何人くらいの来場数だったでしょうか。

(事務局)

前回、3千人くらいでしたね。3千人全員に配るのは出来ませんので、店舗に置かせていただくランチョンマットを持ってきてくださった方に配るだとか、毎日限定数で配るようにしないと数が間に合わないと思います。

(田中委員)

単に配るのではない方がいいですよ、希望者のみ等。

(大学事務局 中村)

そうですね、展示を観ていただいた方のみに配るとか。

(大学事務局 今井)

クッキーの型ですが、全部一式プレゼントですか。

(吉田幸弘委員長)

いえ、2.3個のパーツが入っているだけでいいと思いますよ。

(田中委員)

クッキーを焼く事は大丈夫なのでしょうか。

(吉田幸弘委員長)

シャレオでということですよ。

(事務局)

現場で調理をしないという事を条件に、シャレオさんの方では了承を得ています。

(大学事務局 今井)

あらかじめクッキーのタネをつくっておいて、会場で型焼く事だけは可能だそうです。

(大学事務局 中村)

型を抜いて焼くだけの状態にするには、それを保冷しておかないといけませんよね。

(吉田幸弘委員長)

その場で焼いた物をラッピングして渡す事ができるのであればおこなってください。

(田中委員)

しかし、配るためのものは施設等にお願ひし、事前につくっておいて、会場で焼くものは人を呼び込むためにおこなうように分けて考えることが良いのではないのでしょうか。会場で配る数だけのクッキーを焼く事は不可能だと思います。

(事務局)

これは、人配に関わる問題ですので予算等もありますし、持ち帰って検討したいと思います。

(大学事務局 中村)

最悪、オープニングの日と最終日などのように日程を決めて配る事も考えましょう。

( 吉田幸弘委員長 )

搬入は前日ですか。

( 事務局 )

搬入は前日の夜。時間はまだきまっておりません。搬出は最終日 18 : 00 となっております。

( 田中委員 )

クッキーなのですが、来場者数が、日曜とかは多いと思いますので決めた曜日のみとかしてもいいのではないのでしょうか。

( 事務局 )

そうですね。または、夕方など大変人通りが多い時間帯とか。

( 吉田幸弘委員長 )

他に、ご意見等はございますか。

( 木村委員 )

以前、ダンボールを使った展示で、真ん中をくり抜き、塩ビを貼って窓状にしたことがあります。その場合、キャンドル型の照明を仕込みました。200時間は保つものがあるのですが、みなさんをご存知ないですか。このイメージ図案の緑のボックスをツリー型に積んで、側面に窓を作ってカバーすると触られずにすむのかなと思いました。箱の大きさもあると思うのですが中にキャンドル照明をセットしてはどうかと思います。

( 大学事務局 中村 )

このイメージ図案は、正確なものではないのではないので、実際にはもっと積み上げようと予定しています。

( 大学事務局 今井 )

ちょっと、調べて参考にしてみます。

( 吉田幸弘委員長 )

検討しましょう。物によっては覗き込んだ方がよい試作品もありますし、そのまま側面で観た方がよい物もありますし。

( 事務局 )

木村先生の方で、キャンドル照明のサンプルはないのですか。

( 木村委員 )

去年、あったのですが。

( 事務局 )

どのくらいの明るさなのでしょう。

( 木村委員 )

ひとつで足りない場合はみつつくらい置くと充分明るいと思います。

( 吉田幸弘委員長 )

後ほど、調べてみます。

( 木村委員 )

最近で言うと、袋町の裏通りの雑貨屋さんに売ってありました。

( 吉田幸弘委員長 )

では展示については、以上ですね。では4のその他の部分で何かありますか。

( 事務局 )

事務局の方ですよね。議事録の確認が遅くなり申し訳ございません。11月24日までに訂正を受け付けておりますのでよろしく申し上げます。

( 吉田幸弘委員長 )

これは第2回目の議事録ですね。24日まで訂正可能ということですね。

( 事務局 )

1回目の視察が終わりまして、次に2回目の視察をいたします。視察につきましては終わり次第、皆さんへご報告いたします。

( 吉田幸弘委員長 )

展示まで2週間ちょっとと時間がなくなってまいりましたので展示計画を含めこれから集中してやっていきたいと思います。それでは本日の委員会を終了いたします。ありがとうございました。